

平成 9 年度

# 英語学力テスト報告

- I 参加校と参加生徒数
- II 得点状況
  - 1. 総合点の分布状況
  - 2. 学校別平均点分布状況
- III 正答率グラフ
- IV 所見

茨城県高等学校教育研究会  
英語部作問委員会

# I 参加校及び参加生徒数

テストA 参加校数 76校 合計 19,069名

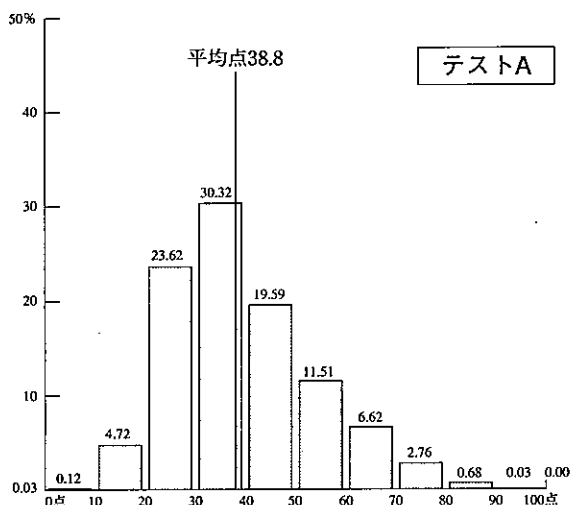
松丘、高萩工、多賀、科学技術学園日立校、太田一、佐竹、大子一、小瀬、山方商、水戸三、水戸商、水戸南、水戸桜ノ牧、水戸短大附属、常磐女子、大成女子、水戸女子、勝田工、国立茨城高専、佐和、海洋、笠間、大宮工、常北、大洗、東海、茨城東、友部東養護、銚田二、銚田農、玉造工、麻生、潮来、鹿島、神栖、波崎、波崎柳川、鹿島灘、土浦三、土浦湖北、石岡一、石岡二、石岡商、小川、八郷、竜ヶ崎一、竜ヶ崎南、愛国学園竜ヶ崎、江戸崎、取手一、取手二、取手松陽、藤代紫水、聖徳大附属聖徳、牛久、牛久栄進、筑波、つくば工科、茎崎、下館二、下妻二、真壁、結城二、鬼怒商、石下、明野、八千代、古河一、古河三、総和、境、境西、岩井、岩井西、守谷、伊奈

テストB 参加校数 43校 合計 9,873名

松丘、太田一、佐竹、大子一、大子二、小瀬、水戸一、水戸三、水戸商、水戸桜ノ牧、佐和、常北、大洗、東海、茨城東、友部東養護、銚田二、潮来、鹿島、神栖、波崎、波崎柳川、土浦三、土浦湖北、石岡一、石岡二、竜ヶ崎南、取手一、取手二、取手松陽、藤代、藤代紫水、聖徳大附属聖徳、牛久、牛久栄進、岩瀬、下妻二、結城二、明野、古河三、総和、守谷、伊奈

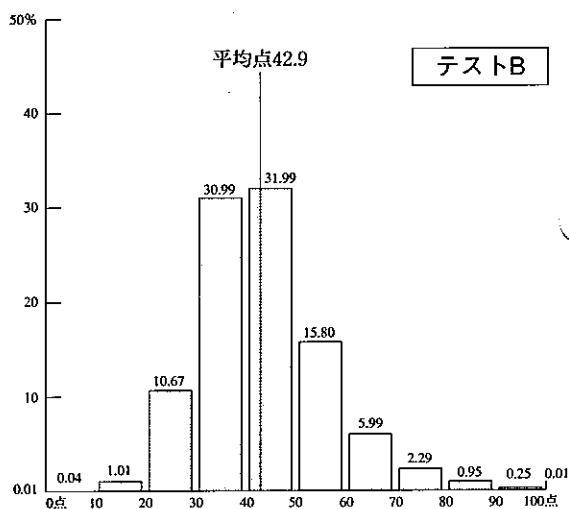
## II 得点状況

### 1. 総合点の分布状況



得点	0	1~9	10~19	20~29	30~39	40~49
人数	6	24	947	4,743	6,089	3,935
得点	50~59	60~69	70~79	80~89	90~99	100
人数	2,311	1,330	555	137	6	0

受験者数 20,083 平均点38.8



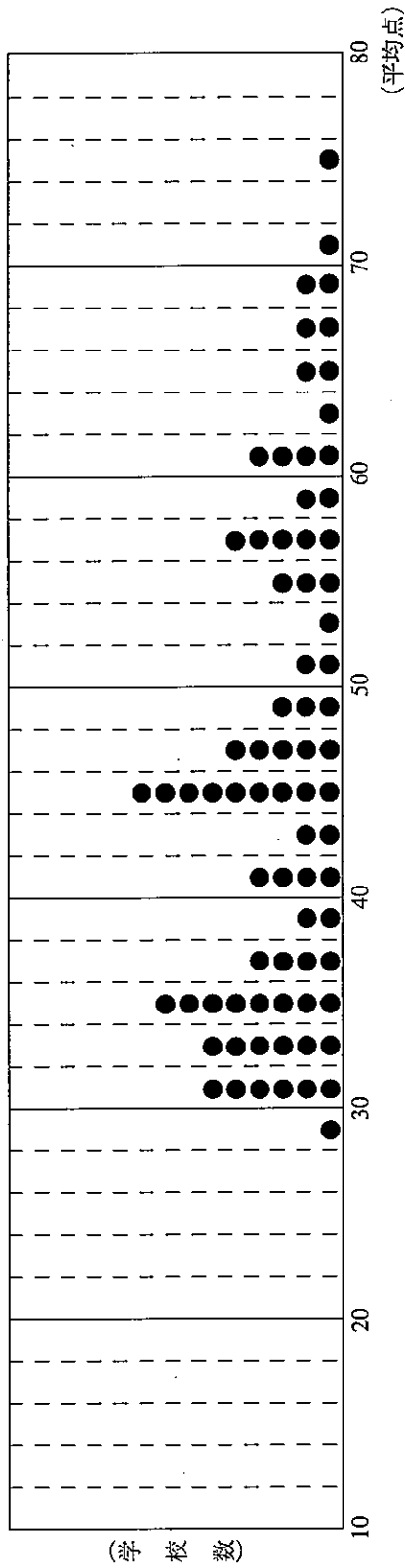
得点	0	1~9	10~19	20~29	30~39	40~49
人数	1	5	115	1,214	3,525	3,639
得点	50~59	60~69	70~79	80~89	90~99	100
人数	1,797	681	260	108	29	1

受験者数 11,375 平均点42.9

2. 学校別平均点分布状況

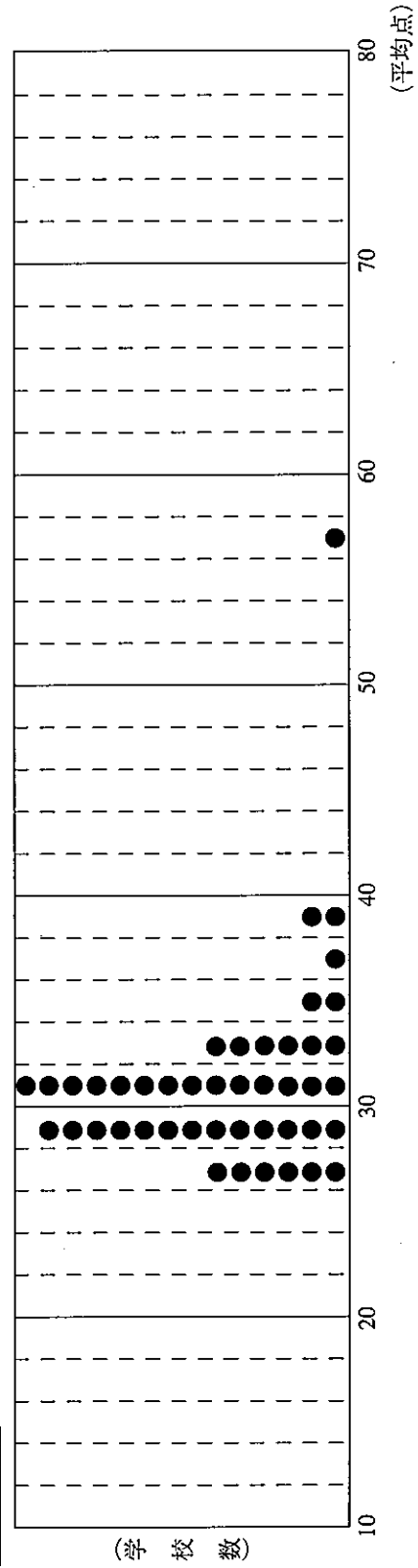
テストA

(同一校でコース別に分けた学校あり)

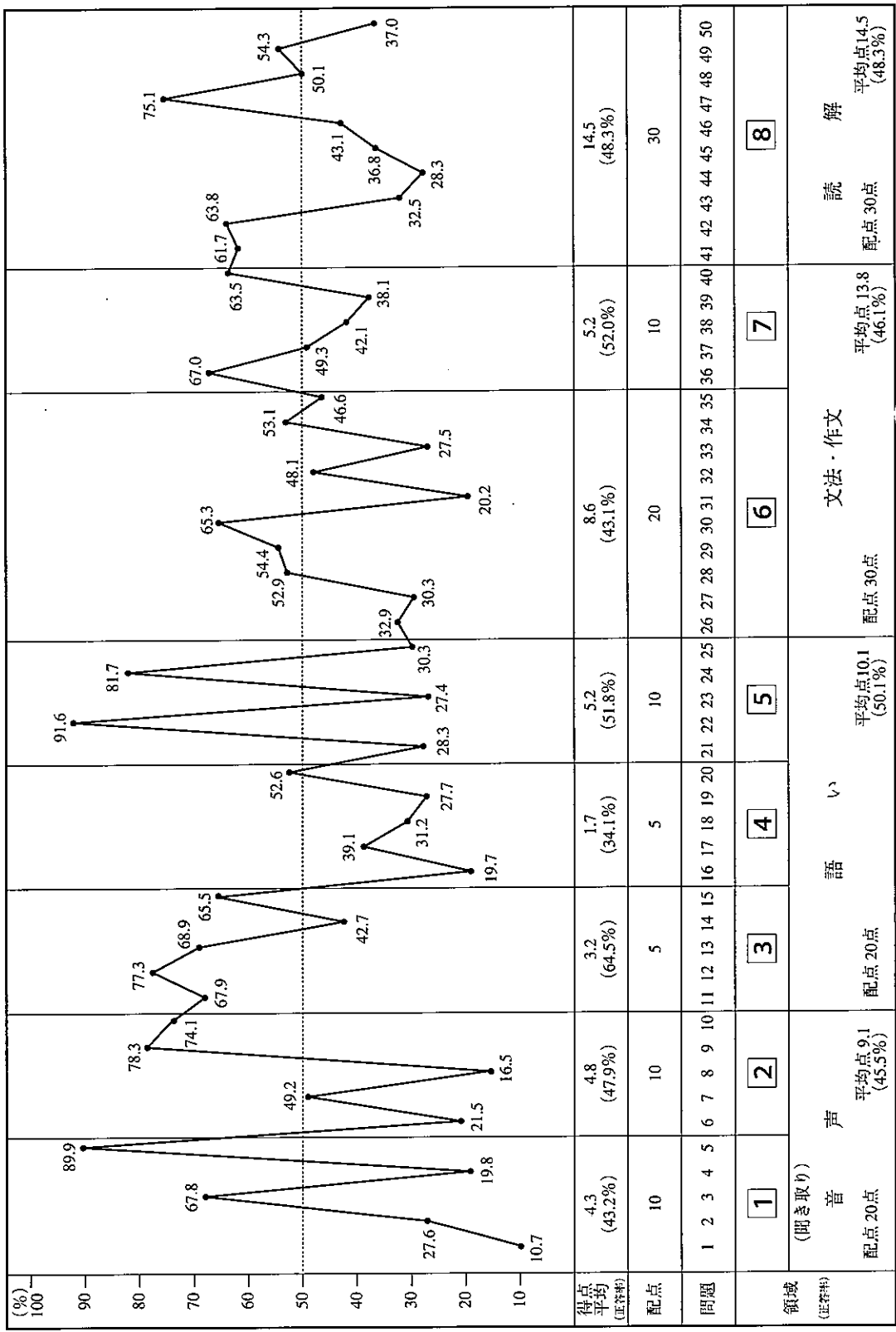


テストB

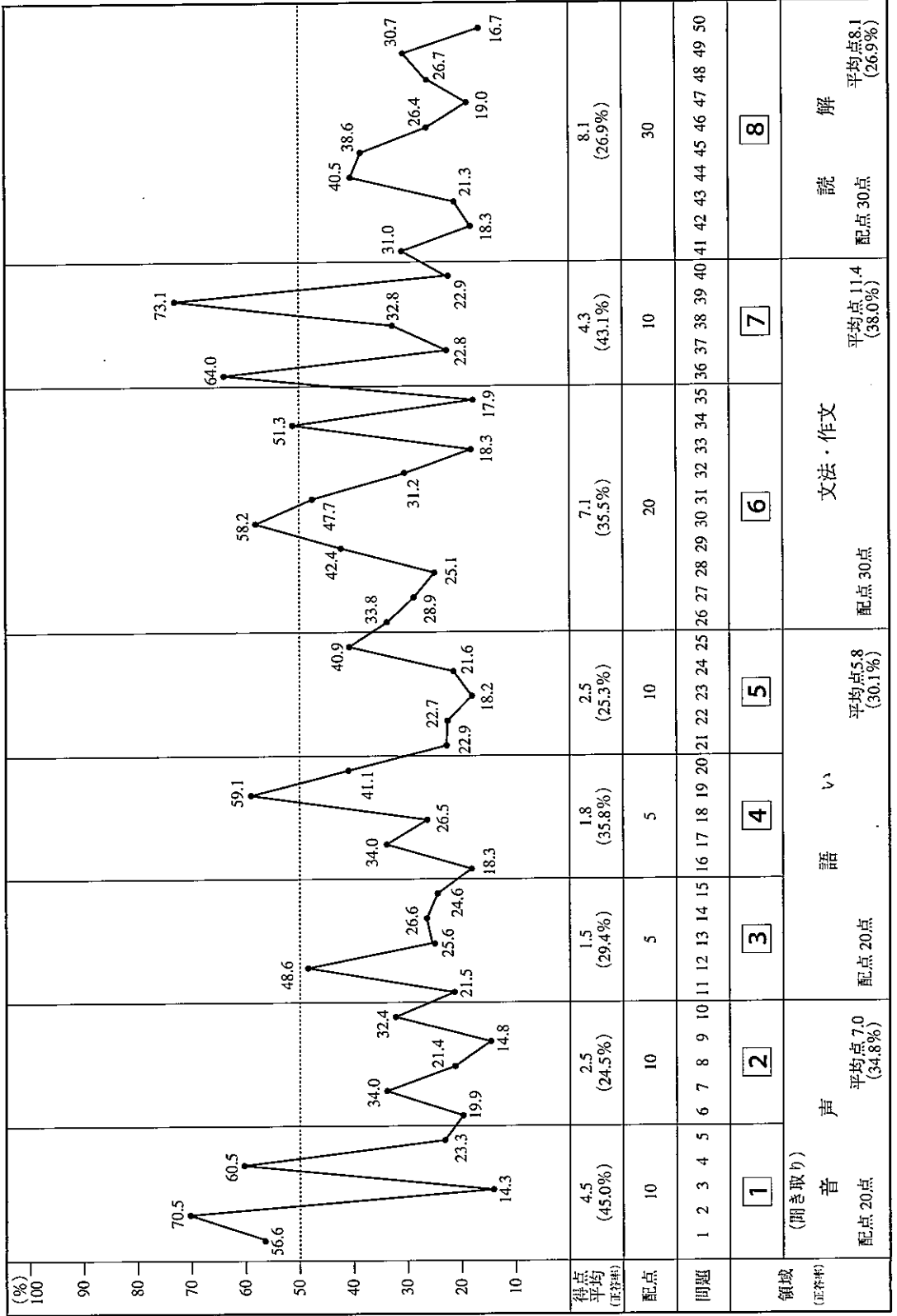
(同一校でコース別に分けた学校あり)



# Ⅲ 正答率グラフ テストA



テストB



## Ⅳ 所見

### テストA

#### 〈音声〉

- 1 (3) については、日常親しみのある内容のためか、正答率が高かった。(1) の数字の入った問題については、昨年同様正答率が低かったので、(4) のような問題も含めて、情報をすばやく聞き取る能力を身につけてほしい。
- 2 会話文の中での文強勢については、よくできている。ただし例年通り、発音の問題については、特に母音の [ɔ] と [ou] の区別が難しいようだ。

#### 〈語い〉

- 3 昨年同様比較的良くできている。
- 4 (16) の I'm afraid ~ は、日常生活の中でよく使われる重要な表現である。ぜひ、定着させたい。

#### 〈会話表現〉

- 5 (23) と (25) の正答率が低かったのは、慣じみのない表現だったからか。

#### 〈文法〉

- 6 例年できの悪い現在分詞の形容詞的用法や、間接疑問文に関する問題は比較的よくできていたが、(31)、(33) のような基本的な文法事項については正確な理解を目指したい。

#### 〈作文〉

- 7 半数以上の生徒ができていた。さらに習熟させたい。

#### 〈読解〉

- 8 取り組みやすい内容の問題であったせいか、正答率が高かった。比較的やさしい長文をたくさん読ませることも読解力をつけさせるひとつの方法ではないか。

#### 〔全体的に〕

出題は例年通り、語い、語句、文法ともに、中学校で履修した範囲からである。全般的によくできていた。しかし、語い力がまだ十分でないと思われるので、今後の指導の中に、語い力を高めるための工夫が望まれる。

## テストB

### 〈音声〉

1

全体の正答率は良かった。(3)については会話表現に慣れていないことと、短時間で計算しなければならなかったことが、正答率が低かった原因であると思われる。

2

頻出問題にもかかわらず、正答率が低かった。語彙習得には音読は欠かせない。

### 〈語い〉

3

全体に正答率は低かった。教科書に出てくる基本的なイディオムは繰り返し使うものであるので、定着させたい。

4

正答率はまずまずであったが、解答状況から正確な理解がなされていないように思える。特に(16)。

### 〈会話表現〉

5

むずかしい問題もあったせいか、正答率が低かった。しかし(21)、(23)などに見られるよく使われる会話表現については習熟させたい。

### 〈文法〉

6

高校新出の文法事項(付帯状況のwith、分詞構文、副詞節中の時制)の定着度が低いようである。

### 〈作文〉

7

問題によって、正答率にばらつきがあった。(39)の無生物主語の構文では高い正答率であったが、一方で(37)の挿入の疑問文では正答率が低かった。

### 〈読解〉

8

最近よく取り上げられている話題であり、検討を重ねた問題であるが、全体として時間配分がむずかしかったせいか、十分な読み込みがなされていないように見えるのが、残念であった。

### 〔全体的に〕

昨年に比べて平均点が大きく下がった。文法・読解力の低下が懸念される。また読解の問題の無答率の高さ、解答率のばらつきをふまえ、問題数も含め、今後の検討を課題としたい。

## 〔後 記〕

今年も、新学期の大変忙しい時期に数多くの学校に参加していただき、無事、第31回目の学力テストを終了することが出来ました。今年度の参加校延べ数は119校(学力テストA 76校、テストB 43校)、受験者総数は28,942名でした。

テスト終了後に、各学校からよせていただきますアンケートの中には、いろいろな角度からの建設的な御意見が数多く寄せられ、感謝しております。当委員会と致しましても、実現可能な御指摘に関しましては、限られた条件の中ではありますが、鋭意、前向きに検討してゆきたいと考えております。

ここ数年の少子化の波が高校にも及び始め、受験者総数が年々減少して行くという厳しい環境ですが、少しでも信頼性の高い学力テスト作りに、委員一同取り組んで行く所存ですので、今後とも御指導と御理解を宜しくお願い致します。

作問委員 山崎 浩之(多 賀)      吉岡 浩(佐 竹)  
           石井 孝(水戸桜ノ牧)    神賀 俊光(那 珂)  
           岡島 岳暁(玉造工業)    根崎 孝志(土浦三)  
           根本 雄一(藤代紫水)    井坂 博子(竹 園)  
           飯塚 博子(鬼怒商)      長谷川 孝(古河三)

## 過去5年間の英語学力テスト参加状況

		H. 9年度	H. 8年度	H. 7年度	H. 6年度	H. 5年度
A	参加校	76校	76校	79校	80校	73校
	受験者数	19,069人	20,083人	22,725人	24,843人	22,258人
B	参加校	43校	47校	47校	48校	44校
	受験者数	9,873人	11,375人	10,224人	10,460人	10,660人
受験校延べ数		119校	123校	126校	128校	117校
受験者延べ数		28,942人	31,458人	32,949人	35,303人	32,918人